



「富士山」

その自然のすべて

諏訪彰編

同文書院, 1992年11月発行

カラー口絵16ページ,

本文355ページ, 定価6,500円

この本は、富士山の自然のさまざまな部門について、それぞれの専門家がその研究の成果に基づいて、一般にわかりやすく解説したものをまとめたものである。これまで、富士山について書かれた本は数多く出版されているけれども、このように総合的なものは初めてであろう。

その内容は、まず主文として次の12章がある。

- 諏訪 彰：富士火山を診断する—その氏・素性を探る
伊藤和明：富士山の噴火を古記録からしらべると
町田 洋：富士山の生い立ちは火山灰などからわかる
西宮克彦：富士山地域の生いたちが化石からわかった
濱野一彦：富士山の溶岩は多種多彩である
倉澤 一：富士火山噴出物の成分から何がわかるか
濱野一彦：富士五湖は噴火のたびに形を変えた
山本荘毅：富士山麓はゆたかな湧き水の宝庫である
土 隆一：富士山のどこに地下水があるのか—その知られざるメカニズムを探る
中島 博：富士山頂には特異な気象がある—測候所の観測記録から
宮脇 昭・菅原久夫：富士山の植物たち—典型的な垂直分布と火山植生
今泉忠明：富士山の動物たち—高山生動物はいない
これらに加えて次の特別記事が随所に配されている。
立平良三：富士山からの気象観測—高層気象観測からレーダー観測まで
樋口忠彦：富士山の景観と環境保護—見れど飽かぬ壮麗な高嶺
諏訪 彰：富士山の横穴にいて新潟地震に気づかなかった地震学者たち
濱野一彦：富士山の大沢崩れと吉田大沢の落石事故は

なぜおこったか

濱野洋三：富士火山の内部を地磁気で調べる

相馬清二：富士山の乱気流—巨大航空機を一瞬に打ち砕いた驚異的破壊力

田代 博：富士山可視マップ—富士山の見える地域

濱野一彦：富士山シンポジウム

編集部：富士山にかかる雲で天気がわかる—河口湖測候所20年観測の成果

藤村郁雄：富士山とともに40年

諏訪 彰：お国自慢の「おらが富士」

カラー口絵の16ページには、100年に一度の瞬間といわれるほどの「富士山頂にかかる壮大な笠雲」をはじめとして、美しい写真と解説がそれぞれの本文と関連して収められているので、楽しみながら理解を深めてゆくことができる。

上に述べた題目からわかるように、この本では広い範囲の問題を取り扱っているが、それぞれの部門の専門家がていねいに解説しているので教えられることがまことに多い。どの項目でも自由に選んで読むことができる。

富士山の噴火についての記事からは、防災のために考えさせられることが多い。火山噴火については、予知情報の必要性が強くいわれているが、現在のところ、噴火の正確な予知は極めて困難である。また、予知の精度に関係なく噴火が起るものであるとするならば、その対策には、長い年月をかけて実行しておかなくてはならない。

予知情報によって災害を免れることができるのは、人や乗物のように動くことのできるものである。建物や農地などのように動かせないものにとっては、予知情報よりも、過去の火山噴火から推定される次の噴火の状況についての情報の方が災害対策には有効である。このように考えるとき、この本に書かれていることは、防災のためにまことに示唆に富んだものといえよう。

(清水逸郎)